

◇ 滄浪閣の題字はその儘に

今は五賢の四賢堂

梅子未亡人廿幾年の住み家

(一) 明日を最後の日に永き別れ

百舌鳥が銳く啼いて麻の先を斬り

に泣れた、微に無手でこぼれ松葉を抜き音がする、憐しい心が

次第に澄んで、僅か九尺四方の

苦しい建物ながら、禪寺の大

百舌鳥が銳く啼いて麻の先を斬り

に泣れた、微に無手でこぼれ松葉を抜き音がする、憐しい心が

次第に澄んで、僅か九尺四方の

苦しい建物ながら、禪寺の大

百舌鳥が銳く啼いて麻の先を斬り

に泣れた、微に無手でこぼれ松葉を抜き音がする、憐しい心が

次第に澄んで、僅か九尺四方の

苦しい建物ながら、禪寺の大

百舌鳥が銳く啼いて麻の先を斬り

に泣れた、微に無手でこぼれ松葉を抜き音がする、憐しい心が

氣を養ひ心を練つた

庭の四賢堂である、入口の内

側には

壁に

書かれて右に岩窟、大久保公

左に三賢、木戸の兩公、正面に

博文公の肖像が掲げてある

島中洲翁が博文公の

侯であつた

の間に應じて

な錯つた小さな彫が玄關の入

口に釣りしてある、故公お支那

へとなつた

この済公も、この四日限り引

きはらす或る家を感じて

は知らず感る家を感じて

は此儘に鎮

に非ざる

が爲めに

日本平和運動の懇談會

井上代表其使命を語る

黄菊白菊咲き亂れた總領事官邸で
府に赴く途次、昨夕來參せる日
本女子大學教授井上秀子、大權
ひろ子兩女史の歓迎を

歓迎を

接待して席上平和運動の
夫婦を招持して、席上平和運動の
就ての懇談會を昨日矢田總領事
夫人主催にて同官邸に開催される
い平和の使ひにも便だ婦人たの前
に一杯となり身動きもまねられない
様で近來、ない盛大な婦人の會合であつた、先づ最初に矢田總
領夫人の歓迎の挨拶が

挨拶があり續いて大津

の歓迎の挨拶が

室は今を盛り

の歓迎の挨拶が

の歓迎の挨拶が

室は今を盛り

の歓迎の挨拶が

の歓迎の挨拶が

室は今を盛り

の歓迎の挨拶が

の歓迎の挨拶が

室は今を盛り

の歓迎の挨拶が

の歓迎の挨拶が

室は今を盛り

の歓迎の挨拶が

の歓迎の挨拶が

室は今を盛り

の歓迎の挨拶が

の歓迎の挨拶が

室は今を盛り

の歓迎の挨拶が

の歓迎の挨拶が

室は今を盛り

の歓迎の挨拶が

の歓迎の挨拶が

室は今を盛り

の歓迎の挨拶が

の歓迎の挨拶が

室は今を盛り

の歓迎の挨拶が

室は今を盛り

の歓迎の挨拶が

室は今を盛り

の歓迎の挨拶が

室は今を盛り

の歓迎の挨拶が

室は今を盛り

の歓迎の挨拶が

